

平成30年度 嘉麻市教育委員会 生涯学習課事業総括表

・ 社会教育係	1~2	・ 人権・同和教育係	3
・ 中央公民館係	4~5	・ 図書館係	6~10
・ 美術館係	11~15	・ 文化財係	16

平成30年度事業総括表

【社会教育係】

番号	アクションプラン主要施策	アクションプラン施策内容	アクションプラン事業名	個別事業名	H 30 年 度 総 括					
					Plan	Do	Check			
					実施目標	実施時期	具体的内容	成果	課題	自己評価
1	3 豊かな人間性及び志をもつたくましく生きる力を培う教育の推進	(5)家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実	② 学社連携融合事業	学社連携・融合事業	学校を核として、地域住民と保護者等と一緒に、子どもたちの学びや育ちを支援する体制を整えることにより、子どもの健全育成と地域社会の教育力の向上を図ります。	年間	<ul style="list-style-type: none"> ・地域活動団体の学校への情報提供 ・人材バンクを活用した学校との連携 	<ul style="list-style-type: none"> ・子ども会、通学合宿実行委員会、住民会議などが学校に出向き、それぞれの団体における事業の周知・募集で学校と連携するなど、学校と団体がともにより充実した事業を実施することができました。 ・学校や保育所、幼稚園等での人材バンクの活用により、地域の人と学校・保育所等との交流が図られました。 ・地域・学校・行政が協力し、子どもたちに向けた体験活動事業を実施することができ、子どもたちの健全育成につながりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事等と地域団体事業が同時期に重なることがあったため、年間を通じた相互の事業スケジュールの確認及び調整を行う必要があります。 ・人材バンクの活用を推進し、地域と学校が繋がる機会を提供する必要があります。 	B
2	3 豊かな人間性及び志をもつたくましく生きる力を培う教育の推進	(5)家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実	③ 家庭教育支援事業	家庭教育支援事業	子育て家庭の孤立を防ぐとともに、子育ての不安や負担感・行き詰まり感の解消を図るなど、地域ぐるみで子育て家庭を支援する体制づくりを目指します。	年間	<ul style="list-style-type: none"> ■子どもを取り巻く環境整備 保護者や子ども、地域全体に対し、子どもを取り巻く環境を整備し、基本的な生活習慣の確立を図りました。 ・メディアの講座 ■子育て応援 ・ミニプレーパーク ・ポジティブディプリン講座 ・こそだてガイド講座 ■地域における家庭教育支援 PTAや子ども会などの社会教育関係団体をはじめ、地域全体と連携し、家庭教育の推進を図りました。 ・メディアの講座 	<ul style="list-style-type: none"> ・各種講座を実施することで、参加者が子育てについて学ぶ場を提供することができました。また、保護者同士が落ち着いて子育てについて話し合うことができ、ストレス軽減につながりました。 ・外遊びの機会が少ない子どもたちに、遊び場と機会を提供することにより、子どもの生きる力や創意工夫する力の育成に役立つとともに、親子のふれあいの機会をつくることができました。 ・年間を通して学校や保育所、幼稚園等にメディアの話をする機会が増え、より多くの幼児、児童、生徒、保護者に、発達に合わせたメディア接触について考える機会を提供できました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・少子化や保護者の早期復職などにより、講座参加者が減少傾向にあることから、開催時期や募集対象が同じとなる他課係(子ども育成課、スポーツ推進課、美術館係、図書館係)との情報交換や連携を図る必要があります。 ・地域ボランティアの発掘、育成が必要です。 ・メディアの話について、今後も継続して啓発を行っていく必要があります。 	B
3	3 豊かな人間性及び志をもつたくましく生きる力を培う教育の推進	(5)家庭・地域の教育力を高める支援体制の充実	④ 青少年健全育成事業	嘉麻市少年相談センター事業	関係機関・団体はもとより、学校、家庭、地域の連携を強化し、社会全体の取組みとして、青少年の健全育成を図ります。	年間	<ul style="list-style-type: none"> ・青少年や青少年を持つ保護者の悩みや相談に、電話や直接対応できるよう学校教育課や教育センターと連携し相談体制の充実を図りました。 ・少年補導委員が効率的に活動できるよう支援を行いました。 ・少年補導委員と連携し、児童・生徒の安全を確保しました。 ・有害図書等の市内各所の立ち入り調査を実施しました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・電話相談の件数は年間数件と少なかったが、相談時に迅速な対応ができるよう学校教育課等と連携し、相談体制の充実を図りました。 ・少年補導委員に継続的な支援を行い、補導活動の充実を図ることにより、児童・生徒の非行防止と不審者等から守ることに繋がりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・相談業務について、学校教育課や教育センターと連携を行い、より充実した相談体制づくりをする必要があります。 ・嘉麻警察署・生活安全係・教育センターとの連携を図りながら、少年補導委員への継続的な支援を行い児童生徒の非行防止と安全安心な環境づくりをする必要があります。 	B
4	3 豊かな人間性及び志をもつたくましく生きる力を培う教育の推進	(6)男女共同参画教育の推進	② 地域社会における男女共同参画推進事業	地域社会における男女共同参画推進事業	社会教育における事業や講座を通して、男女共同参画の趣旨や必要性についての意識啓発を行うとともに、講座を実施する中で性別役割分担意識の解消に努めます。	年間	<ul style="list-style-type: none"> ・男性が家庭教育における重要性や責任を自覚し、男性の家庭教育力の向上を図るため、家庭教育支援講座・親子体験活動を実施しました。 ・社会教育係の事業において、参加者への啓発を行うことができました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・通学合宿において、性別にかかわらず皆で洗濯・調理を行うなど、性別役割分担意識の解消に繋がることができました。 ・ミニプレーパーク講座などの外遊びを通じ、男性保護者が家庭教育に参画するきっかけ作りができました。 ・比較的、男性保護者の参加率が高い事業にあわせ、親子体験活動・講座を実施することにより、男女の性別役割分担解消への意識付けとなりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・事業を実施する際に啓発活動を行ってききましたが、全ての事業での実施に至らなかったためより多くの事業で啓発を行う必要があります。 	B
5	4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	(1)生涯学習関係機関、団体との連携・協働体制の整備	① 社会教育関係団体等育成事業	嘉麻市青少年育成住民会議支援事業	社会教育関係団体の自主的・主体的活動が活発に行われることにより、地域の社会教育活動の活性化を図ります。	年間	<ul style="list-style-type: none"> ・事業が円滑に効果的に実施できるよう支援を行いました。 ○中学生の主張 ○中学生サミット ○研修会 ・子どもの健全育成のため、学校との連携 ・各支部の代表者会議の実施 ・各支部での地域活動の実施 	<ul style="list-style-type: none"> ・中学生サミットは4回目を実施するなど、継続した取組となり、学校と連携することができました。 ・研修会については外部講師を招き、地域の中学生、高校生、大人が対話を行う研修を行いました。アンケートの自由記入では良い意見が多く見られました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・継続的な支援を行い、年間を通して活動が展開されるよう協力していく必要があります。 	B

平成30年度事業総括表

【社会教育係】

番号	アクションプラン主要施策	アクションプラン施策内容	アクションプラン事業名	個別事業名	H 30 年 度 総 括					
					Plan	Do		Check		
					実施目標	実施時期	具体的内容	成果	課題	自己評価
6	4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進	① 社会教育施設整備事業	社会教育施設整備事業	地域の生涯学習の拠点である社会教育施設の適切な維持管理運営を行い、市民の教育・文化の向上と生きがいづくりに繋がります。	年間	社会教育施設の適切な維持管理 ・なつき文化ホール ・上山田住民ホール ・山田市民センター ・白馬ホール ・稲築住民センター	・必要最小限、緊急性等を考慮し、修繕等維持管理に努めました。 ・空調設備等、計画的に整備を行いました。	・老朽化に伴う修繕や取替え、定期点検等、必要最小限の支出で、効果の上がるような維持管理を行っていく必要があります。 ・なつき文化ホールの大規模修繕(吊り天井改修工事)を2020年度に予定しており、工事期間中は利用ができないため、利用者に対し事前の周知を行う必要があります。	B
7	4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進	② ボランティア人材バンク事業	人材バンク事業	市民が学習した成果を地域で活用し、更なる学びや生きがいに繋がる「知の循環型社会」を構築することにより、お互いに学び合い、生きがいのある豊かな地域社会をつくることを目指します。	年間	・生涯学習課や関係団体事業で人材バンク登録者を活用した講座を実施しました。 ・ボランティアを対象とした研修会を開催しました。	・保、幼、小学校を中心に人材派遣を行い、学校と地域の連携を図ることができました。 ・ボランティアを対象とした研修会で、各地域のボランティアが意見交換を行うなど、交流を持つことで今後の活動につながる意識付けができました。	・高齢化に伴い、登録者が減少傾向にあるため、新たな人材の発掘・確保の必要があります。	B
8	4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進	④ 青少年体験活動推進事業	通学合宿推進事業	体験活動を通して、子どもたちの基本的な生活習慣の確立と、社会性、自主性等を身につけた地域リーダーとなる人材育成を推進します。	稲築: 9月3日～9月7日 碓井: 10月15日～19日 山田: 10月8日～12日 嘉穂: 10月8日～13日	各実行委員会が主体となり実施されている通学合宿事業の支援を行いました。	・稲築地区(稲築西小・稲築東小)、碓井地区(碓井小)、嘉穂地区(嘉穂小・牛隈小)、山田地区(下山田小)の4地区で実施しました。参加数に相違はありますが、地域ボランティアや経験した子どもたちがサポーターとして協力することにより、参加した子どもたちが、いろいろな経験や体験をすることができました。	・参加者数に増減があるため、募集のときの工夫やPRが必要です。 ・上山田小、熊ヶ畑小での実施に向けて検討する必要があります。	B
9	4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	(2) 学習機会の提供及び学習成果の活用促進	④ 青少年体験活動推進事業	「わたしのエッセイ」事業	子どもの活字離れを抑止し、表現力の向上を図るとともに、エッセイを通して、子どもと保護者が話し合い、ふれあえる機会を提供することで、子どもの健全育成を図ります。	募集チラシ: 7月配布 募集締切: 9月7日 表彰式: 1月27日	・選考委員会にてテーマを決め嘉麻市内の小学生を対象に作品を募集しました。 ・作品選考後、2回の選考委員会を経て表彰式を行いました。 ・入選作品の文集を作成しました。	・子どもの活字離れが叫ばれる中、昨年度の1,438点に対し今年度は1,572点の応募がありました。 ・文章を書くことにより、自分の思いが表現されており、子どもたちの成長が見られました。	・表彰式について、当日朝のリハーサルから本番までスムーズに進行することができ、予定より早く閉式することができました。今後は児童及び保護者の負担軽減のため、集合時間を遅らせるなどの見直しを検討する必要があります。	B

平成30年度事業総括表

【人権・同和教育係】

番号	アクションプラン主要施策	アクションプラン施策内容	アクションプラン事業名	個別事業名	H 30 年 度 総 括					
					Plan	Do		Check		
					実施目標	実施時期	具体的内容	成果	課題	自己評価
1	6 人権尊重精神を育成する教育の推進	(2)社会教育における人権・同和教育の推進及び支援	① 人権・同和教育推進事業	地域等での人権・同和教育推進事業	①行政区、団体・サークル、企業等の人権・同和教育に関する学習を推進し、地域社会や職場などにおいて、人権尊重理念の涵養を図ります。 ②市民を対象に各地区公民館において人権・同和教育についての研修会を行い、日々の暮らしや住民の自然な会話の中から人権意識が広がることを目指します。	4月1日～3月31日	①行政区単位・団体・サークル・企業内等希望制で人権問題研修会を開催しました。研修内容としては、人権ビデオや個別の人権課題に関するパワーポイントを活用して、人権・同和教育指導員が講師を務めました。また、各地区行政区長会において、研修会の趣旨説明及び開催依頼を行いました。また、新たに子ども向けの人権研修会を実施しました。 ②市民を対象とした人権・同和教育研修会を中央公民館係と共催で各地区公民館において開催しました。	人権ビデオ視聴後、ビデオの内容の振り返りを行う研修資料(パワーポイント)を作成するなど、学習内容の工夫を行ったことで、人権問題についての理解が深まり、日常生活においても差別への気づきに繋がっています。公民館分館事業である「ときめき学習」や小学校6年生へのゲストティーチャー等において、人権研修を行うことができました。	行政区長会での人権・同和教育研修会について、全地区での実施を働きかける必要があります。 子どもたち向けの研修方法と教材の研究が必要です。	B
2	6 人権尊重精神を育成する教育の推進	(2)社会教育における人権・同和教育の推進及び支援	① 人権・同和教育推進事業	事業主人権・同和教育推進事業	市内事業所の事業主を対象に、人権・同和教育研修会を開催することにより、事業所内全体に人権尊重理念を浸透させることを目指します。	2月25日	市内事業所の事業主を対象に外部講師を招聘し、人権・同和教育研修会を開催しました。開催にあたり、人権・同和教育対策課と連携し、講師派遣手続きや飯塚公共職業安定所との協議を行いました。 【参加者数】103名	関係機関等と連携して「人権・同和教育について考えるポイント―身近なところから『小さな渦』を」というテーマで、外部講師による研修会を開催しました。また、飯塚公共職業安定所から公正採用についての説明を行い、人権意識の向上に繋げることができました。参加者数は106名から103名と減少しましたが、参加事業所数は77事業所から85事業所と増加しました。	より多くの事業所に参加していただき、事業所内での人権意識の醸成を図る必要があります。	B
3	6 人権尊重精神を育成する教育の推進	(2)社会教育における人権・同和教育の推進及び支援	② 人権・同和教育推進事業	解放子ども会	児童・生徒一人ひとりの発達段階に即した人権意識、人権感覚の涵養を図り、意識、態度、実践的な行動など様々な資質や能力の育成を目指します。	4月1日～3月31日	・各地区において、月2～3回の解放子ども会を開催しました。 ・発表会 11/18(日)人権啓発センターあかつき 【参加者数】121名 ・社会科見学 10/28(日)福岡市科学館 【参加者数】50名	解放子ども会や発表会、社会科見学の実施により、人権問題について正しい認識と理解を深め、基礎学力の向上を図るとともに差別に立ち向かえる子どもの育成を図ることができました。		D
4	6 人権尊重精神を育成する教育の推進	(2)社会教育における人権・同和教育の推進及び支援	② 人権・同和教育推進事業	解放子ども会合宿研修会	合宿を通じて、人権・同和教育学習を深め、仲間の大切さ・思いやりの心を育むとともに、基本的な生活習慣の定着や規範意識の向上を図ります。また、合宿研修会を支援する保護者や地域の人たちへの感謝の気持ちを育みます。	未実施	未実施	—	解放子ども会事業の実施方法について、見直す必要があります。	D
5	6 人権尊重精神を育成する教育の推進	(2)社会教育における人権・同和教育の推進及び支援	② 人権・同和教育推進事業	解放子ども会フィールドワーク	聞き取り学習や交流学習を通じ、他地域の文化や歴史に触れ、差別の現状や人権と平和、仲間の大切さ等について学ぶことにより、差別を許さず、差別をなくしていくこととする児童・生徒の育成を目指します。	小学校 8月18日(土)～19日(日) 中学校 1月25日(金)～27日(日)	嘉麻市解放子ども会フィールドワーク実行委員会が実施するフィールドワーク事業に対し、補助金交付を行いました。 小学校:8/18(土)～19(日)長崎 【参加者数】15名 中学校:1/25(金)～27(日)大阪 【参加者数】18名	現地で聞き取り学習を行い部落差別や被爆者差別に対する現実を学び、人権問題についての正しい認識と理解を深めることにより、差別を見抜き、差別に立ち向かえる子どもの育成を図ることができました。		D
6	6 人権尊重精神を育成する教育の推進	(2)社会教育における人権・同和教育の推進及び支援	③ 人権・同和教育推進事業	解放学級	社会の変化に伴い多様化する厳しい差別の現実打ち克つ力を身につけるため、一人ひとりが継続して自ら気づき、考え、行動する力を培う学習活動を支援します。	4月1日～3月31日	・各地区において、月1回程度の人権学習を実施しました。 ・解放学級等合同開講式 4/27(金)人権啓発センターあかつき 【参加者数】101名 ・解放学級等合同開講式 3/27(水)人権啓発センターあかつき 【参加者数】名	地域住民の自主的・主体的な学習活動を学校と協力してサポートすることにより、学級生一人ひとりが、人権問題について更なる正しい認識と理解をより深め、継続した学びの場となっています。	開講式や開講式の開催について、学級代表者との連携が必要です。	B
7	6 人権尊重精神を育成する教育の推進	(2)社会教育における人権・同和教育の推進及び支援	③ 人権・同和教育推進事業	識字学級	日常生活において文字の読み書きに不自由している人の、読み書きを学ぶ場と学ぶ機会の確保を図ります。	4月1日～3月31日	週1回、識字学級を開催し、文字の読み書き学習の支援を行いました。	様々な教材を活用し、学級生それぞれが学習内容を深めることができるよう支援を行ったことにより、学習の場と機会の確保を図ることができ、日常生活に即した学びに繋がっています。	文字を獲得することで、生きることへの自信や喜びに繋がるよう継続して支援することが課題です。	B

平成30年度事業総括表

【中央公民館係】【稲築・碓井・嘉穂・山田地区公民館】

番号	アクション プラン主要 施策	アクション プラン施策 内容	アクション プラン事業 名	個別事業名	H 30 年 度 総 括					
					Plan	Do		Check		
					実施目標	実施時期	具体的内容	成果	課題	自己評価
1	4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	(2)学習機会の提供及び学習成果の活用促進	④ 公立公民館・自治公民館連携強化推進事業	分館・自治公民館活動支援事業	それぞれの公民館で行われている公民館活動の支援を行い、地域活性化と地域文化の向上を目指す。	4月～3月	地区公民館による分館が企画・立案・運営する事業への支援 地域・学校・行政の連携強化 各種補助金の交付 ・分館運営費補助 ・自治公民館活動事業費補助金 ・公民館類似施設等補助金 各種補助金についての地元協議	分館運営費補助金や自治公民館活動費補助金を交付することや地域活動指導員の支援により、地域コミュニティの観点である公民館の活性化を図ることができた。	公民館基本計画に基づき分館方式への移行を進めていく必要があるため、新たに分館を設置する区域においては、地区公民館が主導的立場で分館事業の実施計画を立案する必要がある。 分館運営費補助金や自治公民館活動費補助金については、今後算定基準の見直し等を行う必要があるが、稲築・碓井地区においては、自治公民館方式であるため、まず分館対象区域を設定する必要があり、対象区域が設定できるまでは、算定基準の見直しは難しい。	B
2	4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	(2)学習機会の提供及び学習成果の活用促進	⑤ 公民館事業	分館・自治公民館施設見直し事業	公民館基本計画に基づき、分館施設の開設や建替、移設等を行う。 自治公民館施設の見直しを行う。	4月～3月	分館施設の設置や見直しを行い、施設の開設や建替、移設等の検討、地元協議を行う。 自治公民館施設の見直しを行い、地元協議を行う。	山田・嘉穂地区の分館施設の移設については、随時地元協議を行い、ある一定の理解を得ることができた。	分館を新設する稲築・碓井地区については、分館の対象区域の設定と自治公民館施設の見直しを同時に進めていく必要があるため、今後も地元住民への十分な説明、協議が必要である。また、山田・嘉穂地区については、分館施設の設置や移設等については、今後も地元住民への十分な説明、協議が必要である。 公民館基本計画に基づく分館方式への統一や自治公民館施設の見直しについては、分館長会議及び自治公民館長会議にて随時説明を行っているが、自治公民館長が毎年交代している地域もあり、更なる説明が求められている。 分館の新設や建替、移設等については、多額の費用を要することから、財政面の問題もあり、起債等の財源の確保や施設整備の時期をずらし、予算を平準化する必要がある。	C
3	4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	(2)学習機会の提供及び学習成果の活用促進	⑤ 公民館事業	公民館施設管理運営事業	生涯学習の拠点である公民館施設の適切な維持管理を行う。	4月～3月	公立公民館施設 ・施設の維持管理 ・施設の改修・補修 ・施設備品の管理・補修	適切な施設の維持管理に努め、地域住民が安心して活動できる場の提供を行うことで、公民館の利用促進、活動の活性化を図ることができた。	老朽化した施設が多くあるため、経年劣化による部品の交換や施設修繕等、費用が増加している。	B
4	4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	(2)学習機会の提供及び学習成果の活用促進	⑤ 公民館事業	成人式	大人になったことを自覚し、自らの努力で、人生を切り拓こうとする新成人を祝い励まし、若者の社会や地域のリーダーとしての育成を行う。	4月～3月	実行委員会形式による企画・運営 第1部 式典 第2部 アトラクション	新成人で構成する実行委員会で第2部のアトラクションを企画・運営することにより、新成人としての主体性を養うことができた。	成人年齢を現行の20歳から18歳に引き下げる改正民法が2022年4月1日に施行されることに伴い、成人式の実施方法を検討していく必要がある。 なお、2022年度については、成人式を迎える対象年齢が3か年(18歳から20歳)に亘るため、成人式の実施方法及びその対応について、検討する必要がある。	B

番号	アクションプラン主要 施策	アクション プラン施策 内容	アクション プラン事業 名	個別事業名	H 30 年 度 総 括					
					Plan	Do		Check		
					実施目標	実施時期	具体的内容	成果	課題	自己評価
5	4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	(2)学習機会の提供及び学習成果の活用促進	⑤ 公民館事業	中央公民館事業	社会教育法第20条の目的に沿った講座を実施し、公民館活動の活性化を図る。	4月～3月	<p>公民館基本計画に基づき、住民の生涯学習や生活における文化の向上・健康増進などに資するための講座や講習会等を開催する。 公民館全体の取りまとめや指導助言といった機能と全市的な事業の開催をする。</p> <p>■市民に学習の場を提供し、社会参加を支援する事業の実施 「嘉麻サルビア大学」 「日本語教室」</p> <p>■地域住民が集い、懇親、交流、情報交換し、地域住民や関係団体が活性化することを目的とする事業の実施 「公民館まつり」</p> <p>■地域団体の活性化と生きがいづくり、仲間づくりを目的とした事業の実施 「DIY講座」 「陶芸教室」</p>	<p>実行委員会や地域住民との協働により事業を実施することで、地域住民のニーズを踏まえた事業を実施することができた。</p> <p>「公民館だより」を発行することで、公民館の情報を広く発信し、公民館活動の認知を回り、公民館活動の活性化を図ることができた。</p>	<p>中央公民館で実施している全市的な事業を、各地区公民館を中心に実施していくための柔軟な組織作りが必要である。</p> <p>新たな人材の確保のためにも、地域住民と協働で実施する事業や、地域の核となる人材育成を行う事業について、積極的に取り組む必要がある。</p>	B
6	4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	(2)学習機会の提供及び学習成果の活用促進	⑤ 公民館事業	地区公民館事業	社会教育法第20条の目的に沿った講座を実施し、公民館活動の活性化を図る。	4月～3月	<p>公民館基本計画に基づき、住民の生涯学習や生活における文化の向上・健康増進などに資するための講座や講習会等を開催する。 公民館情報を広く発信するとともに、参加しやすい環境を提供する。 住民への学習機会のきっかけの提供と各種事業を通じて、地域の核として活動する存在となる人材育成に寄与する。</p> <p>■地域住民が集い、懇親、交流、情報交換し、地域住民や関係団体が活性化することを目的とする事業の実施 「青空フェスタ」 「防災研修会」</p> <p>■伝統文化の継承と世代間交流を通して地域コミュニティの活性化を推進する事業の実施 「盆踊り講習会」 「集まれ！かほっ子」</p> <p>■地域団体の活性化と生きがいづくり、仲間づくりを目的とした事業の実施 「各種講座」</p> <p>■地域住民とともに企画・運営し、地域コミュニティの活性化及び世代間交流を目的とした事業の実施 「ときめき学習」 「ふるさと探検隊」</p>	<p>実行委員会や地域住民との協働により事業を実施することで、地域住民のニーズを踏まえた事業を実施することができた。</p> <p>住民への学習機会を提供している各種講座からサークル活動に移行することで、生涯学習の促進に寄与し、公民館の利用促進に繋げることができた。 「将棋教室」 「フランス刺繍体験講座」 「ヨーガ教室」</p> <p>「公民館だより」を発行することで、公民館の情報を広く発信し、公民館活動の認知を回り、公民館活動の活性化を図ることができた。 年4回発行(6月・9月・12月・3月)</p> <p>「まなびのひろば」を最新版に修正し、サークル活動を紹介することにより、公民館の利用促進に繋げることができた。</p>	<p>公民館基本計画の公民館の設置目的及び実施する事業の内容に沿った事業を実施していく必要がある。</p> <p>新たな人材の確保のためにも、地域住民と協働で実施する事業や、地域の核となる人材育成を行う事業について、積極的に取り組む必要がある。</p> <p>中央公民館組織機構の見直しにより、全市的な事業を地区公民館で実施するに際して、住民が参加しやすい環境を整える必要がある。</p>	B

平成30年度嘉麻市立図書館事業総括表

【図書館係】

番号	アクションプラン主要施策	アクションプラン施策内容	アクションプラン事業名	個別事業名	H 30 年 度 総 括					
					Plan	Do		Check		
					実施目標	実施時期	具体的内容	成果	課題	自己評価
1	4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	(3)図書館の利用促進	① 図書館施設管理運営事業	図書館施設管理運営事業	施設・資料・図書館システムの適切な管理を行い、利用者が図書館を快適にかつ安心して利用できるようにする。	4月～3月	<ul style="list-style-type: none"> ○施設の維持管理 ○資料の購入・管理・保存 ○図書館システムの管理運営 ○移動図書館車の運行 (市内47箇所)／2週間に1回 ○図書館だよりの発行／月1回 ○図書館協議会の開催／年8回 ○図書館基本計画の策定 ○嘉飯圏域定住自立圏連携事業に伴う図書館相互利用の開始 	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館システムの安定稼働により地域を問わず資料貸出等の利用者サービスを円滑に行うことができた。 ○図書館基本計画を策定したことで、将来に向けて地域の読書活動を継続的に支援していく方針を定めることができた。 ○嘉飯圏域における図書館の相互利用体制を整え、地域住民にとってより図書館利用の利便性をより高めることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○図書館システムの更新時期を迎えるため、より効率的で効果的なシステム運用を検討する必要がある。 ○移動図書館車の運行について、地域の駐車場の安全性を確認し、適切な運行ができるように調整を行う必要がある。 ○図書館基本計画に基づき、公共図書館と学校図書館の双方の機能を充実させるための取組を検討する必要がある。 	A
2	4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	(3)図書館の利用促進	① 図書館施設管理運営事業	図書館職員(図書司書)研修	図書司書のスキルアップを行い、図書館利用者へのサービスの向上を目指す。	市内研修 6月28日 10月25日 1月24日 県立図書館研修 5月～2月	<ul style="list-style-type: none"> ○公共図書館司書と学校図書館司書との市内合同研修会の開催／年3回 ○学校図書館と公共図書館の連携についての研修 ○障害のある子ども達への対応についての研修 ○子どもの読書活動(手遊び、お話しの小道具等)についての研修 ○公共図書館司書と学校図書館司書との意見交換会の実施／年3回 ○県立図書館等主催研修への参加／1人年2回程度参加 ・館長等研修会 ・資料保存に関する研修 ・広報に関する研修 ・レファレンス及び郷土資料に関する研修 ・図書館レイアウトに関する研修 ・子どもの読書活動に関する研修 	<ul style="list-style-type: none"> ○市内研修 ・職員全員を対象として、子どもの読書活動や学校図書館との連携等において、図書司書として必要な知識・技術を学ぶことができた。 ○意見交換会 ・公共図書館及び学校図書館が互いの改善点や疑問等を含めた情報共有を行うことで、よりスムーズな連携・協力を行うことができた。 ・子ども読書の日事業の図書館おすすめ本の企画について、学校図書館との協力体制を整え、読書推進を図る取組を実施することができた。 ○県立図書館等主催研修参加 ・県立図書館等における各種研修に参加することで司書としての専門性を活かした幅広い知識の習得ができており、図書館サービスの向上に繋げることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> ○市内研修 ・公共図書館と学校図書館に関わる市内の図書館関係職員のスキルアップが図られるような研修内容を設定し、適切な開催時期と回数について検討することが必要である。 ○意見交換会 ・公共図書館と学校図書館の将来的な統合を見据え、望ましい形を模索するため開催形式や回数を検討する必要がある。 ○県立図書館等主催研修参加 ・受講後に、職員全体で習得した知識や技術を共有できるように努めることが必要である。 	A
3	4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	(3)図書館の利用促進	② 読書活動推進事業	おはなし会	子どもたちに本に親しむ機会を提供することにより、子どもたちの読書習慣の涵養を図り、図書館の利用を促進する。	5月～3月	<ul style="list-style-type: none"> ○乳幼児向けおはなし会の実施 ■開催回数 山田/10回、稲築/17回 碓井/9回、嘉穂/10回 ○児童向けおはなし会・工作会の実施 ■開催回数 山田/8回、稲築/8回 碓井/9回、嘉穂/8回 ○映画会の実施 ■開催回数 山田/1回、稲築/1回 碓井/1回、嘉穂/2回 	<ul style="list-style-type: none"> ・絵本の読み聞かせ等を行うことにより、保護者や子ども達に対して、読書に親しむ機会を提供することができた。 ・児童向けおはなし会においては、各地区の学童保育所から参加されるケースも増えており、学童期の子どもの読書活動の推進が図られている。 <p>■おはなし会平均参加者数比較 乳幼児向け／平成29年度：14.2人 平成30年度：10.7人 児童向け／平成29年度：17.9人 平成30年度：19.8人</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児向けおはなし会において、平均参加者数が減少していることから、PRを工夫することにより、より多くの方に関心をもってもらえるように働きかけをする必要がある。 ・市内図書館において、行事開催数に相違があるため、長期的に安定した運営ができるよう開催回数の調整を図る必要がある。 	B

平成30年度嘉麻市立図書館事業総括表

【図書館係】

番号	アクションプラン主要施策	アクションプラン施策内容	アクションプラン事業名	個別事業名	H 30 年 度 総 括					
					Plan	Do		Check		
					実施目標	実施時期	具体的内容	成果	課題	自己評価
4	4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	(3)図書館の利用促進	②読書活動推進事業	赤ちゃんタイム	乳幼児の読書推進活動をより活発に進めるため、市内各図書館で定期的に時間を設定し、図書館の利用促進を図る。	5月～3月	○乳幼児向けおはなし会と併せて、親子で布絵本等で遊んだり、図書館職員や子育て支援センター職員が絵本や子育ての相談業務等を行う各館で毎月1回、午前10時～12時 ■参加者数 平成30年度:435人	○乳幼児と保護者に対する図書館利用の機会を提供できている。	○他部署との連携強化を図りながら、この事業の周知を図ることが必要である。	A
5	4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	(3)図書館の利用促進	②読書活動推進事業	出張おはなし会(朝の読書活動含む)	子どもたちに本に親しむ機会を提供することにより、子どもたちの読書の習慣づくりを図り、図書館の利用を促進する。	5月～2月	○地域の保育所・小学校等の施設における絵本の読み聞かせやブックトークの実施 ○土曜未来塾における絵本の読み聞かせやブックトークの実施 ■読み聞かせ実施回数 平成29年度:46回(参加者数/2,398人) 平成30年度:39回(参加者数/2,154人) ■ブックトーク実施回数 平成29年度:19回(参加者数/620人) 平成30年度:20回(参加者数/649人) ■土曜未来塾実施回数 平成29年度:11回(参加者数/215人) 平成30年度:7回(参加者数/105人)	○保育所や学校、土曜未来塾で子ども達に読み聞かせやブックトークを行うことで、読書の楽しさを伝え、本に触れる機会を提供することができた。また図書館を利用する機会の少ない子どもにも、読書活動の働きかけができた。 ○図書館職員が各施設に出向くことで、子ども達との交流が生まれ、図書館を利用するきっかけ作りができた。 ○ブックトークの準備を行うことにより、司書の資質向上を図ることができた。	○市内各施設における取組を行うことで、自主的な子どもの読書活動に繋げるため、公共図書館司書と学校図書館司書との協力を含め、市内各施設との連携強化を図ることが必要である。	B
6	4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	(3)図書館の利用促進	②読書活動推進事業	ブックスタート事業	絵本を通して親子の心の触れ合う時間を提供し、住民の子育て支援と乳幼児期からの読書習慣を涵養することで図書館利用を促進する。	4月～3月 1回	○健康課が実施する4ヶ月健診に併せて、ブックスタート事業の意義の説明 ○絵本2冊を含むブックスタートパックの配布 ○健診会場において、赤ちゃんと保護者に対する絵本の読み聞かせの実施	○乳幼児及び保護者に対し、親子で絵本に親しむ機会を提供することができている。また、乳幼児向けおはなし会等への参加や図書館の利用の案内ができた。 ○他部署との連携・協力により、子育て支援の情報を提供できた。 ○地域住民にボランティア協力していただくことにより、世代間交流の場となっている。 ■配布率 平成29年度100% 平成30年度100%(見込み)	○ブックスタートパック配布の徹底や子育て支援事業への橋渡しをスムーズに行えるように、引き続き各部署との連携・協力を継続していくことが必要である。 ○配付後に、図書館利用や行事参加に繋がるような働きかけを積極的に行う必要がある。 ○現在の実施体制を維持するため、赤ちゃん抱っこボランティアについてのPRを積極的に行い、新規ボランティアを養成することが必要である。	A
7	4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	(3)図書館の利用促進	②読書活動推進事業	子育て支援講座(絵本ですくすく講座) 【ブックスタートフォローアップ事業】	ブックスタート事業のフォローアップ事業として、親子で触れ合いを持つ機会を提供すると共に、保護者に乳幼児期における読書活動(読み聞かせ)の大切さを理解してもらい、子ども達の読書習慣の涵養を図る。	嘉穂/6月5日 稲築/9月2日 碓井/11月25日 山田/3月17日	嘉穂/絵本の読み聞かせについての講義と実演 稲築/子どもと絵本についての講義 碓井/おはなし会の実演と家庭での読み聞かせの楽しみ方についての講義 山田/わらべ歌についての講義と実演 ■参加者数・参加率 嘉穂/9組(定員/20組)・70% 稲築/13人(定員/20人)・40% 碓井/6組(定員/15組)・50%	○絵本の読み聞かせを含め、乳幼児期からの家庭での読書活動を促進するための講座を行い、参加者に楽しみながら読書活動の意義について認識していただくことができた。 ■アンケートの平均満足度 嘉穂/90.0% 稲築/95.4% 碓井/96.7%	○参加者の満足度は高いが、参加率が低いため、対象となる市民の興味を惹くような内容を考慮することで、新規参加者増を図る必要がある。また、PR方法についても更なる検討が必要である。	B

平成30年度嘉麻市立図書館事業総括表

【図書館係】

番号	アクションプラン主要施策	アクションプラン施策内容	アクションプラン事業名	個別事業名	H 30 年 度 総 括					
					Plan	Do		Check		
					実施目標	実施時期	具体的内容	成果	課題	自己評価
8	4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	(3)図書館の利用促進	②読書活動推進事業	子ども読書の日事業	4月23日の子ども読書の日を契機として、子どもたちが積極的に読書に親しむ環境を整え、子ども達の読書意欲を喚起できるような取組みを実施し、住民全般に理解と関心を深める。	5月1日～5月31日	○絵本展 ○図書館ビンゴ ○おはなし会スペシャル ○司書おすすめの本のリスト配布 ○おすすめ本の展示 ○図書館クイズ 他 ■図書館ビンゴ参加者数 平成29年度:472枚 平成30年度:282枚	○様々な事業を行うことにより、子ども達が読書に対して興味を惹くような働きかけを行い、読書意欲を喚起することができた。 ○今年度から、学校図書館との連携事業として、図書館おすすめの本のリストやポップ作成を協力しながら実施することができた。	○学校図書館との連携を進めながら、事業の充実を図る必要がある。 ○前年度から継続して開催する事業が中心となり、例年4月開始で開催しているが、30年度は準備期間の不足により、5月からの開催に変更した。次年度については、例年どおり4月から開始できるように準備する必要がある。	C
9	4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	(3)図書館の利用促進	②読書活動推進事業	夏休み等子ども向けイベント	夏休み期間等に図書資料に関連した事業を開催することで、今までと違った側面からの本の楽しさに触れてもらうことで、図書館利用を促進する。	嘉穂/7月27日 稲築/7月31日 山田/8月2日 碓井/8月19日	嘉穂/夏休み工作会(スライムづくり) 稲築/九州工業大学ワークショップ(手作り箱カメラづくり) 山田/福岡管区気象台出前講座(災害ワークショップ) 碓井/夏休み工作会(美術館連携事業:オリジナルこびとづくり) ■参加者数・参加率 嘉穂/19人(定員20人)・95% 稲築/33人(定員30人)・110% 山田/18人(定員30人)・60% 碓井/14人(定員30人)・47%	○昨年度よりも申込数が増え、事業内容を工夫した成果が表れた。 ○楽しみながら読書や図書館に触れる機会を提供することができた。 ○外部機関(気象庁、福岡管区気象台)との連携により、子ども達に科学的な知識に触れる機会を提供し、併せて関連資料の利用を促すことで、読書活動の幅が広がった。 ○美術館係や公民館係との連携事業として開催したことにより、図書館行事に参加したことのない児童に対して読書に触れる機会を提供することができた。 ■アンケートの平均満足度 嘉穂/97.9% 稲築/94.5% 山田/92.2% 碓井/88.6%	○概ね、昨年の申込み数を超え好評であったが、一部定員に達しない事業があったため、引き続き魅力ある事業内容及び周知方法の検討を行う必要がある。 ○近年好評である体験やものづくりに加えて、夏休みの課題(調べ学習)を支援する等、知の拠点施設である図書館の特性を活かした内容及び周知方法を検討する必要がある。	A
10	4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	(3)図書館の利用促進	②読書活動推進事業	一日図書館員	子どもの読書活動として、図書館の仕事体験を行い、読書への興味を深めるとともに図書館利用を促進する。	夏休み期間: 各館2回開催 春休み期間: 各館2回開催	○夏休み及び春休み一日図書館員の実施	○小学生低学年と高学年に分けて開催し、プログラムも考慮した。昨年よりも申込みが増え、好評を得られた。 ○熱心に取組む子どもが多く、図書館に興味をもっていた子供が提供することができた。	○比較的高学年の申込みが少ないため、積極的にPRを行う必要がある。	A
11	4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	(3)図書館の利用促進	②読書活動推進事業	福岡県子どもの読書活動推進事業	学校図書館との連携を進めながら、読書活動応援隊を活用した子どもの読書活動の推進を図る。	1月24日	○子どもの読書活動研修会の開催 「子どもと本の橋渡し～手遊び・わらべ歌・お話しの小道具にチャレンジしてみよう～」 ■参加者数・参加率/ 45人(定員60人)・75%	○おはなし会や学校における朝の読書活動において実施する様々な手法について、実践を交えた研修を行うことで、読み聞かせの幅が広がった。 ■アンケートの平均満足度/96.4%	○読書活動応援隊の活動についてPRを行うことにより、活動に対する理解を深め、応援隊の人員確保に努め、小中学生への読書活動を推進する必要がある。	A

平成30年度嘉麻市立図書館事業総括表

【図書館係】

番号	アクションプラン主要施策	アクションプラン施策内容	アクションプラン事業名	個別事業名	H 30 年 度 総 括					
					Plan		Do		Check	
					実施目標	実施時期	具体的内容	成果	課題	自己評価
12	4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	(3)図書館の利用促進	②読書活動推進事業	秋の読書まつり	市民が図書館に親しむ機会を提供し、もって図書館の利用を促進する。	10月～11月	○図書館スタンブラリー ○本と雑誌のリサイクル市 ○おはなし会スペシャル ○大人の工作会(オリジナル図書館バッグづくり) ○雑誌の付録抽選会/山田 ○中高生向き本の紹介展示/山田 ○秋の映画会(一般向け) ○稲葉志耕館高校主催ビブリオバトルへの協力 ■図書館スタンブラリー参加者数 平成29年度:1,351枚 平成30年度:1,293枚	○各種事業を開催することにより、幅広い年代の方に読書や図書館に親しんでいただけるような働きかけを行うことができた。 ○本と雑誌のリサイクル市では、多くの方に来場いただき、除籍雑誌及び図書等の有効活用ができた。また、開催方法を検討し、期間を限定せずに常設展示を行う等、広く配布できるように工夫することによって、より有効に活用していただけるようになった。 ○大人の工作会においては、創作活動と読書を繋げるプログラムとし、参加者にも大変好評だった。 ○今年度から、高等学校におけるビブリオバトルの開催について図書館からも広報等について協力をを行い、新たな分野で読書活動の推進を図ることができた。	○館内での協議についてできるだけ早めに取り掛かり、スムーズな運営ができるように努める必要がある。	B
13	4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	(3)図書館の利用促進	②読書活動推進事業	読書講演会	読書活動の啓発と図書館利用の促進を図ることを目的として読書講演会を開催し、本への興味・関心を促進する。	11月17日	○読書講演会の開催 「作家のうちあげ話～出版業界の舞台裏・作家になるには～」 ■参加者数・参加率/ 57人(定員150人)・38%	○嘉麻市に所縁のある作家を講師にお迎えし、出版業界や小説制作の背景等についてお話しを伺うことにより、これまでとは違った視点による本や読書への興味・関心を促すことができた。 ■アンケートの平均満足度/88.2%	○広報が不足していたため、参加者が定員を下回った。PR方法や周知の時期について、検討する必要がある。	B
14	4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	(3)図書館の利用促進	②読書活動推進事業	図書館教養講座(ラクラク読書会)	読書に親しむ機会を設け、図書館利用を促進する。	6月～12月 年6回	○短編小説または随筆の講義及び輪読、意見交換 ■参加者数・参加率/ 21人(定員30人)・70%	○気軽に文学や読書に親しんでいただける講座となった。一般向けの読書活動の推進を図ることができた。 ○講義内容が好評を得ている。受講生同士で感想等について意見交換をされており、本とおした交流が深まっている。 ■アンケートの平均満足度/95.7%	○定員を下回る参加者数となっているため、PR方法を検討する必要がある。	A
15	4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	(3)図書館の利用促進	②読書活動推進事業	大人のためのおはなし会	大人を対象にしたおはなし会を開催し、癒しの時間や今までと違った本との出会いを提供することで、図書館利用を促進する。	12月15日	○大人のためのおはなし会の開催 「青春プレイバック～あの頃のトキメキをもう一度～」 ・読書ボランティアや音楽演奏のボランティアの協力により、朗読と音楽演奏の2部構成とした一般の方向けのおはなし会を開催 ■参加者数・参加率 平成29年度:45人(定員50人)・90% 平成30年度:31人(定員50人)・62%	○今年度初めての試みとして、朗読と音楽を併せたプログラムとし、参加者からも好評を得ている。 ○朗読作品の選定を始めとして、ボランティアと意見交換しながら、円滑に準備を進め、ボランティアと図書館が一体となった取組ができた。また、ボランティア活動の発表の機会を提供することができた。 ■アンケートの平均満足度 平成30年度:88.1%	○開催時期や時間について、より多くの方の参加が望めるような設定を検討する必要がある。 ○開催に際しては、読書ボランティアの協力が必要不可欠となっている。準備期間に余裕を持ち、ボランティアとの意見交換を進めていく必要がある。	B

平成30年度嘉麻市立図書館事業総括表

【図書館係】

番号	アクションプラン主要施策	アクションプラン施策内容	アクションプラン事業名	個別事業名	H 30 年 度 総 括					
					Plan	Do		Check		
					実施目標	実施時期	具体的内容	成果	課題	自己評価
16	4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	(3)図書館の利用促進	② 読書活動推進事業	大人向け工作会	図書館の資料に関連した事業を開催することで、今までと違った側面からの本の楽しさに触れてもらい、新たな利用者の開拓を図り、図書館利用を促進する。	10月21日	○大人の工作会の開催「オリジナルの図書館バッグをつくらう♪」 ■参加者数・参加率 平成29年度：19人(定員20人)・95% 平成30年度：20人(定員20人)・100%	○図書館利用の際に使用できる図書館バッグの工作とし、プログラムにも本の紹介を加える等の工夫を行い、参加者からも好評を得られた。 ○図書館行事に参加したことのない参加者も居られ、図書館利用を促す良い機会となった。 ○美術館系の地域活動指導員に講師として協力してもらうことにより、お互いの特性を活かした連携事業ができた。 ○今年度は託児の申込み(2名)があり、子育て世代の方に参加していただくことができた。事業開催中は、幅広い世代の方がお互いに交流できる機会となった。 ■アンケートの平均満足度 平成30年度：92.6%	○事業の準備に、手間や時間がかかることから、円滑な運営方法について検討する必要がある。	A
17	4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	(3)図書館の利用促進	② 読書活動推進事業	図書館資料の特集展示	時事や地域文化に関するテーマ設定を行い、図書館資料を定期的に展示することにより、図書館利用を促進する。	4月～3月	○一般図書・児童図書(毎月) ○本の福袋2019(1月) ■新春初読みの参加者数 平成29年度：105人 平成30年度：147人	○季節や社会問題に即したテーマ展示を行うことによって、利用者の興味・関心を促し、図書館利用に繋げることができている。 ○本の福袋の企画については、秋の読書まつりのスタンプラリー事業を活用し、利用者からもおすすめする本を提案していただくことができた。多彩なジャンルの本が設定でき、パック数の増設にも繋がった。	○利用者のニーズを把握し、図書館から魅力あるテーマを提案できるように検討する必要がある。また、PRを積極的に行い、広く周知する必要がある。 ○本の福袋については、引き続き利用者におすすめの本を提案していただくことで、多彩なジャンルの福袋を提供していく。また、PRの時期・方法等も検討する必要がある。	A
18	4 生涯学習の実現を目指す社会教育の推進	(3)図書館の利用促進	③ 図書ボランティア養成事業	読書ボランティア講座	より充実した読書活動推進のための事業展開を図るため、読書ボランティアの養成及び支援を行う。	○読書ボランティアスキルアップ研修(2回講座) 9月4日、10月2日 ○図書館ボランティア養成講座 3月5日、3月12日	○読書ボランティアスキルアップ研修(2回講座) ・ストーリーテリングに関する学習・実演 ○新規ボランティア養成講座(2回講座) ・図書の補修方法等に関する学習・実演(図書館応援ボランティア) ■スキルアップ研修参加者数・参加率 平成29年度：33人(定員50人)・60% 平成30年度：14人(定員15人)・93% ■養成講座参加者数・参加率 平成29年度：8人(定員・20人)・40% 平成30年度：12人(定員15人)・80%	○読書ボランティアスキルアップ研修 ・現在活動中の読書ボランティアのスキルアップを行うことで、更なる子どもの読書活動の充実を図ることができた。ストーリーテリングの実演とおとして、図書館行事での発表にも繋げることができた。 ○新規ボランティア養成講座 ・新たな分野(図書の補修等)で図書館に協力していただくボランティアを養成することができた。 ・講座終了後に、図書の補修を中心としたボランティア活動について協力が得られた。 ■スキルアップ研修アンケートの平均満足度 平成30年度：95.0% ■養成講座アンケートの平均満足度 平成30年度：95.0%	○読書ボランティアスキルアップ研修 ・ボランティアのニーズを考慮し、より多くの方々に受講していただけるような内容の検討が必要であり、PR時期や方法を工夫する必要がある。 ○新規ボランティア養成講座 ・今後、ボランティア活動について、できる限り参加者の要望を考慮しながら、より参加しやすい形で長く継続していただけるように図書館側の支援体制について検討する必要がある。 ・ボランティア活動を広く市民にPRし、資料の大切さについて理解を広めるとともに、図書館や読書について広く関心をもっていただけるような働きかけを行う必要がある。	A

平成30年度 嘉麻市教育委員会 生涯学習課事業総括表

【美術館係】

番号	アクションプラン主要施策	アクションプラン施策内容	アクションプラン事業名	個別事業名	H 30 年 度 総 括					
					Plan	Do		Check		
					実施目標	実施時期	具体的内容	成果	課題	自己評価
1	7 市民文化の創造	(1) 美術に関する創造的活動の推進	① 文化芸術活動推進事業	文化芸術活動推進事業	市民が美術館を身近なものと感じ、美術館で文化芸術を鑑賞・創作する機会及び展示発表に活用できる場の充実を図る。	4月～3月	<ul style="list-style-type: none"> 市文化協会などの会議への参加、助言及び関係団体の展示活動への協力、支援。 アトリエ通年活用団体（学習）への支援。 アトリエ、展示室5の活用を図る。 地域公民館等での子どもたちへの創作体験の場の提供及び支援。 関係団体への創作体験の場の提供（出前）。 オレンジサロンでの創作体験支援。 学校での美術館見学、絵画鑑賞時の案内、説明。 出前授業など学校との連携事業の実施。 職場体験（中・高校）、博物館実習（大学）の受入。 	<ul style="list-style-type: none"> 【団体支援など】 <ul style="list-style-type: none"> 市文化協会交流展、市文化協会碓井支部の文化祭、琴平展の実施において、市文化協会と協力・連携、交流が図れた。 アトリエ利用団体の学びの支援を行い施設の利用を図ることができた。 MOA美術嘉麻市展や県小学校児童絵画展嘉麻市展や筑豊地区中学校総合文化祭美術・文化作品展など、児童、生徒の作品が展示され、特に県小学校児童絵画展嘉麻市展には多くの来館者があり、美術館の周知を図ることができた。 【地域関係】 9回 <ul style="list-style-type: none"> 公民館で行われるときめき学習や図書館の大人の工作会などの行事に講師として参加し市民へ、創作体験の場の提供を行った。 【夏休み5回/冬休み1回/図書館1回/オレンジサロン2回】 【出前講座】 2回 <ul style="list-style-type: none"> ゆめ祭り、子どもフェスタの会場で簡単な創作体験ができるブースを設置し普段美術館にこない人にも美術館の活動のPRを行った。家や学校ではできない体験を通して、創作の楽しさを知ってもらうことができた。 【学校関係】 <ul style="list-style-type: none"> 特別企画展の関連事業として、市内の小・中学校で出前授業を実施した。実施校の内、稲築東中学校では、6月～3月の約9か月間に渡り、連携授業を継続。担当教諭と連絡を取り合い、適宜活動補助に訪問した。展示鑑賞以外の美術館の活用方法を知ってもらう機会となった。 福岡県小学校児童画展の会期中、団体見学で訪れた児童生徒に対し、常設展示を含めたガイドを行った。織田廣喜について知る機会を提供することで、地元文化への興味・関心の喚起を図ることができた。 2名の博物館実習生と3名の職場体験学習生を受け入れた。座学と実践による指導を行い、美術館の運営と学芸員の職務内容について十分な理解を得ることができた。 碓井朗読の会との連携の下、碓井小学校で織田廣喜紙芝居の読み聞かせを行った。児童に楽しみながら地元文化について知ってもらう機会を得ると共に地域のボランティア団体との連携も図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も美術館の利活用と周知を図るため関係団体を支援し、連携、協力することが必要。 会場や対象に合わせた短時間で体験できる創作プログラムの開発が必要。 公民館や施設側との準備、タイムスケジュールの確認が必要。 地域などへの出前体験講座を実施するにあたり、道具の置き方、作業場所、作業の流れなどを確認が不十分なところがあった。 	<p>A</p> <p>A</p> <p>A</p>

H 30 年度 総括										
番号	アクションプラン主要領域	アクションプラン施策内容	アクションプラン事業名	個別事業名	Plan	Do	Check	自己評価		
					実施目標	実施時期	具体的内容		成果	課題
2	7 市民文化の創造	(1) 美術に関する創造的活動の推進	② 美術館運営管理事業	美術館運営管理事務	・快適な環境の中で安心して、芸術鑑賞や創作、展示などの文化芸術活動が行われ、また憩いの場となるよう施設等の維持管理及び運営を行うとともに、美術館並びに実施事業の周知を図る。	4月～3月	<ul style="list-style-type: none"> 美術館維持管理に必要な業務の委託。 資料閲覧室のカーペット張替。 裏側駐車場区画線などの引き直し。 展覧会案内パンフレットの作成。 広報や美術館ホームページ、SNSを活用した事業案内や情報提供。 美術館ホームページへ利用案内の追加。 筑豊美術館ネットワークとの連携事業。 	<ul style="list-style-type: none"> 維持管理を継続することで、快適な環境の中で安心して利活用が出来た。 駐車場の区画線などを引き直すことで利便性と安全を図ることができた。 芝生公園に隣接する閲覧室のカーペット張替などにより、快適な環境を整えることができた。 パンフレット作成、SNS・ホームページの充実を図ることで更に多くの人へ美術館活動の周知と情報提供、利用案内を図ることができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 安心、安全な快適環境を継続して維持し、施設の管理を行う必要がある。 築20年を経過しており、空調設備や電気設備の改修や建物設備の老朽化による修理などが想定される。 社会教育施設全体の見直しの中で、施設の在り方の検討が必要。 入館料、使用料、減免等、施設の運営等について検討を行う必要がある。 今後も展覧会についてSNSやホームページでのいち早い情報提供に努める。 可能な範囲内で展示室の明るさの均一化を図る必要がある。 	A
3	7 市民文化の創造	(1) 美術に関する創造的活動の推進	② 美術館運営管理事業	碓井琴平公園管理事業	・憩いの場として快適かつ安心して利活用できるよう、環境美化と維持管理に努める。	4月～3月	<ul style="list-style-type: none"> 美術館施設敷地内及び隣接する碓井琴平公園内の清掃、除草、草刈及び芝生や樹木などの維持管理。 危険な枝の伐採や集積されている枝などの除去。 公園内トイレの維持管理。 トイレの鍵開閉時などに合わせての巡回。 公園内石のモニュメントの安全点検。 	<ul style="list-style-type: none"> 継続して年間を通して公園の維持管理を行うことで、遠足や家族、散歩、子どもたちの遊び場など、様々な利用があった。 嘉麻市ふれあいまつり会場となり多くの人が訪れ、公園及び美術館の周知ができた。 園路に飛び出した枝や不要な枝等の伐採や集積枝の除去、巡回により芝生内の石やゴミを取り除き、安全で快適な環境を整えることができた。 モニュメントの安全点検を行い、経年劣化の箇所などを把握し、応急処置を施すとともに、次年度にメンテナンスを実施することとした。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後も継続し公園の維持管理に努める。 オカメ笹と草刈の範囲の見直しが必要。 公園を巡回し、芝生内の石やゴミを取り除いたり、状況の確認が必要。 公園トイレや公園内手洗い場の水栓が開放状態になったままの事象がある。 公園内モニュメント(シーソーと飛行機)修理などが必要。 碓井琴平公園の案内と利用をPRする必要がある。 	A
4	7 市民文化の創造	(1) 美術に関する創造的活動の推進	② 美術館運営管理事業	収蔵作品の保管及び管理	・適切な環境の中で、収蔵作品及び展示作品の保存及び管理を行う。	4月～3月	<ul style="list-style-type: none"> IPM活動の推進のため、館内研修を行い概要と活動内容についての共通理解を図ることができた。 市民アトリエ利用団体及び施設利用者へ有機物持ち込み禁止等の規制事項の周知を行い、一定の理解を得た。 博物館実習生と協力し、収蔵庫4の簡易清掃及び、一部の収蔵品のコンディション確認を実施。作品保存に適した環境整備を図った。 外部委託により、収蔵品の修復作業を実施。損傷箇所の修復を行い、状態改善を図った。 外部委託により、一部の収蔵品の写真撮影を行い、ボジフィルム、データの2種類の媒体により、作品情報の蓄積を図った。 閉館業務時に見回りを実施。問題が発見された箇所の記録と早期対策を図った。 職員用出入口や裏玄関、資料閲覧室のガラス面などの、隙間が見られる場所に隙間テープを設置するなどの対策を講じた。 	<ul style="list-style-type: none"> 展示室及び収蔵庫内の温湿度管理。 IPMに関する活動推進。 収蔵品の修復。 所蔵作品の写真撮影。 収蔵庫内の清掃。 所蔵品のコンディション確認。 収蔵庫2の燻蒸 	<ul style="list-style-type: none"> 時期によって、収蔵庫及び展示室の湿度が不安定になる為、安定した温湿度維持のための対策を講じる必要がある。 収蔵庫内のカビ発生防止のため、今後定期的な清掃を実施する必要がある。 館内への有機物(植物、土等)持ち込み禁止等の規制事項について、施設利用者への周知を図り、理解を得る必要がある。 作品の虫歯被害がないか、定期的な目視確認と、可能な限り施設への虫の侵入を防ぐ対策が必要。 1つの所蔵作品につき複数の台帳番号(受け入れ番号、分類番号、収蔵番号)が振られている為、いずれかに統一する必要がある。 	B
5 ①	7 市民文化の創造	(1) 美術に関する創造的活動の推進	③ 企画展事業	春のコレクション展	・常設展とは別に、館蔵品を用いた特別展示を行うことで、さまざまなテーマにより多角的に織田廣喜の魅力を紹介する。	4/1 (1日間) 〔※3/1～4/1〕 (28日間)	<ul style="list-style-type: none"> 「写真家林忠彦が見た画家織田廣喜」 写真家林忠彦の生誕100年を記念し、収蔵品の林忠彦の作品と織田廣喜の作品を展示。 〔写真〕 林忠彦作品 23点 沼田早苗作品 1点 〔絵画〕 織田廣喜作品 15点 織田リラ作品 1点 織田廣比古作品 1点 織田きじ男作品 1点 織田宅2階アトリエ扉1点 計43点 	<ul style="list-style-type: none"> 常設展示と関連付けることにより、企画展観覧後に改めて常設展の観覧を薦める連携ができた。 	<ul style="list-style-type: none"> 春のコレクション展の実施計画を立て、細かなスケジュールを作成する。 コレクション展の周知を図る。 コレクションのデータ整理と確認作業に努める。 	A

番号	アクションプラン主要領域	アクションプラン施策内容	アクションプラン事業名	個別事業名	Plan Do Check					
					Plan	Do	Check	課題	自己評価	
					実施目標	実施時期	具体的内容			成果
5 ②	7 市民文化の創造	(1) 美術に関する創造的活動の推進	③ 企画展事業	春のコレクション展	・常設展とは別に、館蔵品を用いた特別展示を行うことで、さまざまなテーマにより多角的に織田廣喜の魅力を紹介する。	開催中 3/1~3/31 (27日間)	「親愛なるものへ」 ・織田廣喜の作品と共に、織田と関係の深かった作家たちの作品を一堂に展示、併せて織田の遺品や映像等の参考資料を紹介する。 [油 彩 画] 織田廣喜作品 15点 織田リヲ 作品 2点 織田広比古作品 1点 織田きじ男作品 1点 長谷川陽三作品 1点 前川泰三作品 1点 山口利明作品 8点 林忠彦作品 1点 [版 画] 吉井淳二作品 2点 [水彩・素描] 織田廣喜作品 11点 河村陽介作品 1点 [その他] 手紙1点 織田廣喜自筆解説文1点 参考資料7点 計52点	開催中 ・参考資料を併せて展示することで、織田廣喜の人物像や、他者との関連性が理解しやすい展示内容とすることが出来た。 ・常設展示の作品と関連した作品や資料を展示することで、常設展への観覧を推奨する試みを行った。 ・図書館との連携により、関連イベントを実施。来館者に楽しく鑑賞してもらおう機会の提供を図った。 ・市内小学校及び、近隣施設などにポスターやチラシを配布し、展覧会の周知を図った。	開催中 ・展覧会の周知に関して、今後はSNSでの告知も強化し、若年層の来館を促す。 ・作品及び作家の調査を日常的に行い、コレクション展に反映させていくことが必要である。 ・常設展示の定期的作品の展示替えが不定期であり、作品の劣化と、展示構成のマンネリ化も懸念される。	
6	7 市民文化の創造	(1) 美術に関する創造的活動の推進	③ 企画展事業	第13回嘉飯山の画家たち展	・飯塚市、嘉麻市、桂川町(旧嘉飯桂地域)に在住し、現役で活躍する作家を紹介することで、地域美術の今を映し出すとともに、今後の地域文化を推進する。	7/7~ 8/19 (38日間)	・嘉麻市、飯塚市、桂川町において活躍する25名(別紙出品者リスト)の作家の作品を展示し、今なお咲き続ける嘉飯山の美術を紹介した。 ・一昨年の第12回展より出品作家選定委員会を設置し、出品作家の選定を実施した。 【関連事業】 ・オダビ即興演劇部 7月7日(日)18:00~ 展示室5 即興演劇による作品解説を飯塚市を拠点として活動する即興演劇集団「モザイクス」が演じた。 ・まるやまもこライブイベント 8月4日(土)13:30~15:30 市民アトリエ 展覧会出品作家まるやまもこ氏がアクリル板にマーカーで作品を描く公開制作を行った。	・入館者数=1,043人(27.4人/日) 前回=1,219人(46.9人/日) 内訳 一般=264人(25.31%) 高年生= 5人(0.48%) 小中生= 30人(2.88%) 身障者= 69人(6.62%) 高齢者= 368人(35.28%) 土曜開放= 20人(1.92%) 学校引率= 95人(9.11%) 妊婦 = 1人(0.1%) その他12名=11人(1.05%) 未就学 = 53人(5.08%) ※一般、高大、小中生には団体人数を含む。 ・来館者居住区構成比 (有効回答者:937人) 市内26.9%、市外72.3%、無回答0.8%	・出品作家の選考においては、展示作品を出品する作家の選定を公正かつ適正に行なうため、「嘉飯山の画家たち展」出品作家選定要綱に基づき行っているが、市内の職員での作家の選定が難しくなっている。 ・嘉飯桂地域における美術作家の高齢化や死去とともに、従前のような中央画壇での活動をしていたり、大作を制作するような作家が減少してきている。また若い作家においては、平面絵画にとられない立体的や空間美術など現代的表現での制作を行う傾向があり、展覧会の内容などにおいても再考を要すると思われる。	B
7	7 市民文化の創造	(1) 美術に関する創造的活動の推進	③ 企画展事業	なばたとしたか絵本原画展	・絵本作家なばたとしたかの絵本原画展を開催することで、原画の魅力を通して豊かな感性を育み、文化の向上を図る。	9/1~10/8 (32日間) ※9/30は風接近に伴う臨時休館	・「こびとづかん」や「こびと大百科」などのこびとシリーズを手掛ける絵本作家なばたとしたか(1977~)の初期から最新絵本までの原画や立体資料などを展示した。 【展示内訳】 原画184点 フィギュア52点 【関連事業】 ・ライブイベント 9月2日(日)10:00 作家本人が、市民アトリエ内において公開制作をおこなった。 ・サイン会 9月2日(日)13:00、15:00 ・市内4館の図書館において「こびと」や不思議な生物をテーマとした特設コーナーを設け展覧会の広報などに努めた。 ・展覧会関連事業として、稲築中学校及び稲築東中学校で出前授業を実施。これに加え、両校美術部には、夏休み期間中での短期出前授業を行った。生徒の作品は展覧会期間中に市民サロンに展示した。また成果物として、生徒の作品を掲載した「オリジナルこびとづかん」を美術館で作成し、両校へ配布した。 ・碓井小学校で全校児童を対象に出前事業を実施。カードゲーム形式の鑑賞学習を行った。	・入館者数=2,541人(79.4人/日) 前回絵本原画展=1,272人(48.9人/日) 内訳 一般= 965人(37.98%) 高年生= 25人(0.98%) 小中生 = 328人(12.91%) 身障者= 123人(4.84%) 高齢者= 235人(9.25%) 土曜開放= 154人(6.08%) 学校引率 = 63人(2.48%) 妊 婦 = 7人(0.28%) その他12名=14人(0.55%) 未就学 =516人(20.31%) ※一般、高大、小中生には団体人数を含む。 ・来館者居住区構成比 (有効回答者:2,000人) 市内20.9%、市外78.8%、無回答0.3%	・関連商品の販売においては商品の種類が多く、また来場者も週末に集中するなど商品販売にあたる職員の時間外勤務など負担が大きくなった。 ・通常の授業との兼ね合いにより、展覧会期間中に作品を完成させることができない生徒がいた。	A

番号	アクションプラン主要領域	アクションプラン施策内容	アクションプラン事業名	個別事業名	Plan				Do				Check		
					実施目標		実施時期		具体的内容		成果		課題		自己評価
8	7 市民文化の創造	(1)美術に関する創造的活動の推進	③ 企画展事業	第74回県展 筑豊展	県展筑豊展を開催することで市民に美術鑑賞の機会を提供すると同時に、更なる創作意欲を高め、美術活動の充実を目指す。	【Ⅰ期】 10/30～11/4 【Ⅱ期】 11/6～11/11 【Ⅲ期】 11/13～11/18 (計18日間)	・福岡県美術展覧会の日本画、洋画、書写真、デザインの5部門の中から、公募の部の入賞、入選作品及び筑豊地区の県美術協会会員の作品を展示した。 【Ⅰ期】洋画：59点 【Ⅱ期】日本画：14点 写 真：47点 デザイン：14点 【Ⅲ期】書：104点 【関連事業】 合評会 洋 画：11月4日(日)14:00 日 本 画：11月11日(日)13:00 デザイン：11月11日(日)14:00 写 真：11月11日(日)15:00 書：11月18日(日)14:00	・入館者数=961人(53.4人/日) 前年度=874人(48.6人/日) 内訳 一般= 161人(16.75%) 高大生= 1人(0.1%) 小中生= 9人(0.94%) 身障者= 59人(6.14%) 高齢者= 520人(54.11%) 土曜開放= 14人(1.46%) 学校引率= 51人(5.31%) 妊 婦= 0人(0%) その他12条=43人(4.47%) 未就学=4人(0.42%) ※一般、高大、小中生には団体人数を含む。 ・来館者居住区構成比 (有効回答者:867人) 市内35.6%、市外63.8%、無回答0.6%	・たくさん来場者を迎えることだけが成果ではなく、出品者や次世代の愛好家を増やすことも大切である。 ・出品者全体の高齢化があるが、高齢層、若年層それぞれに向けた出品の呼びかけも必要である。 ・洋画部門で展示後に画面への傷が発見されたが、作家本人の同意のもとで仮的な処置を施した。 ・額の中で作品がずれている作品が幾点か見られた。受付の時点で作品の固定方法などについて周知が必要。	A					
9	7 市民文化の創造	(1)美術に関する創造的活動の推進	③ 企画展事業	第2回アートキッズ展	・アートキッズの子どもたちが企画し、子どもたちの豊かな感性や視点、発想で展覧会を作り上げ、美術館収蔵作品の新たな魅力を引き出す。	12/14～1/27 (32日間)	・アートキッズ参加児童が活動中に鑑賞した絵画作品と、児童が制作した作品を展示した。 ・12月26日 アートキッズによる記者会見(ケーブルステーション福岡が取材) ・1月20日 アートキッズによるギャラリートーク(保護者 21名が観覧)	・入館者数=367人(11.5人/日) 前年度=523人(9.5人/日) 内訳 一般= 122人(33.24%) 高大生= 2人(0.54%) 小中生= 9人(2.45%) 身障者= 17人(4.63%) 高齢者= 85人(23.16%) 土曜開放= 18人(4.9%) 学校引率=0人(0%) 妊 婦=1人(0.27%) その他12条=67人(18.26%) 未就学= 12人(3.27%) ※一般、高大、小中生には団体人数を含む。 ・来館者居住区構成比 (有効回答者:300人) 市内36.7%、市外63.3%、無回答0% ・織田廣喜美術館の収蔵品を活用したプログラムができた。 ・子どもの作品を見に来た家族、学校の先生などに、美術館について知ってもらうことができ、新たな客層へアプローチができた。 ・展示を見て、次年度のアートキッズやボランティアへの参加を希望する方からの問合せが多数あった。	・キャプションの文字が小さく、位置も低かったので、読みにくかった。	A					
10	7 市民文化の創造	(1)美術に関する創造的活動の推進	④ 美術教育普及事業	美術館ボランティア事業	・子どもたちの美術活動の充実と美術館の活動に関わる人材の育成とともに仲間づくりを図る。	4月～3月	活動回数 19日 ボランティア『織喜』登録者10名(新規3名) 高校生 14名 大学生 3名 が参加。 ・アートキッズ事業や夢まつりなどイベントに参加した際に、創作活動のサポートを行った。 ・研修会を設け、発達障害について学んだ。 ・年に2回の会議を行った。	・今年度は新規の登録者が3名あった。 ・従来の小学生を対象とした事業での補助活動の他に、地域のイベントで美術館の創作体験コーナーを設けた際の手伝いなど、今年は美術館外での活動も行うことができた。 ・従来の美術館ボランティアとは別に、高校や大学に頼み、学生がボランティアとして参加し、子どもたちのサポート体制が充実した。	・高齢のボランティアも多く、来年度以降のボランティア登録が難しい登録者が多数いる。 ・日曜日に開催される事業への参加は家の都合などで難しいというボランティア登録者が多い。	A					

番号	アクションプラン主要領域	アクションプラン施策内容	アクションプラン事業名	個別事業名	H 30 年度 総括					
					Plan	Do	Check	課題	自己評価	
					実施目標	実施時期	具体的内容			成果
11	7 市民文化の創造	(1)美術に関する創造的活動の推進	④ 美術教育普及事業	アートキッズ	様々な芸術体験を通して面白さや楽しさを感じるにより、豊かな発想力を養い感じたこと、想像したことをそれぞれの方法で創造し、表現する力を養うことにより、豊かな感性を育む。	6月～1月 年14回開催 日曜日	<p>受講生 24名(申し込み30名) ※抽選で嘉麻市内の小学生24名に決定。</p> <p>・「どうぶつ」、「たべもの」など、毎回テーマを決め、美術館のコレクション作品を鑑賞しながら、創作活動を行った。</p> <p>・鑑賞した絵画作品と参加児童が制作した作品を並べて展示した「アートキッズ展」を開催し、報道機関に織田廣喜の作品をみた感想や、自分の作品の見どころなどを説明する記者会見や、保護者に向けて発表するギャラリートークを子ども達自らが行った。</p>	<p>・児童が美術館の仕事や様々な創作活動を実際に体験することで、美術館や芸術分野に興味を持つ人材を育むことができた。</p> <p>・美術館の講座を通して、児童とボランティア、児童とアーティストなど、人と人がつながり交流の場所となった。</p> <p>・色や構図、技法を学ぶ時間も設け、日常の子どもの画力が上がった、創作意欲が増したと感じる保護者が多かった。</p>	<p>・受講者選出に当たり市内を優先しているが市外の申込者も多く、抽選方法の見直しが必要。</p> <p>・オイルパステルや色鉛筆などを使った後順番がバラバラになっていた。片付けの指導までなかなか時間内にできなかった。</p>	A
12	7 市民文化の創造	(1)美術に関する創造的活動の推進	④ 美術教育普及事業	近畿大学連携事業	様々な芸術体験を通して面白さや楽しさを感じるにより、豊かな発想力を養い感じたこと、想像したことをそれぞれの方法で創造し、表現する力を養うことにより豊かな感性を育む。	10月27日(土) 10月28日(日)	<p>参加児童 14名(申し込み15名/キャンセル1名) 講師:2名 講師補助:大学生ゼミ生14名(近畿大学産業理工学部 建築デザイン科/情報学科)</p> <p>・デザイン、情報工学を学びながら、嘉麻市をPRする、しゃべって光る洋服を制作。</p> <p>・2日目の夜には織田廣喜美術館エントランスホールでファッションショーを行った。また、アクロス福岡で作品を11/20・21の2日間展示した。</p>	<p>・すべて室内で行う作業であり、昨年のように天候に左右されることがなかった。</p> <p>・下絵を事前に描いてきてもらうことで、作業効率が上がった。家族で相談して決めたというところもあり、家族間での会話にもなった。</p> <p>・ファッションショーを行うことで、作品の発表とともに子ども一人一人が主役となる見せ場をつくることができた。</p> <p>・子どもたちが嘉麻市の名物や特産物、嘉麻市の良いところを考えるきっかけとなった。</p> <p>・アクロス福岡で作品を展示することができ嘉麻市、美術館と近畿大学の連携事業について、多くの人にPRができた。</p>	<p>・一夜城祭りと開催日が重なり、参加できない児童がいた。</p> <p>・細かい下絵も多く、ドット絵化がむずかしいものもあった。青海波模様など下絵を再現できていないところもあった。</p> <p>・モチーフがかぶっていた。</p> <p>・ファッションショーの際、音声が聞き取り辛いところがあった。</p> <p>・体育館から、美術館に移動中に配線が取れ、ファッションショー直前に機械が作動しないなどのトラブルがあった。</p>	A
13	7 市民文化の創造	(1)美術に関する創造的活動の推進	④ 美術教育普及事業	美術講座	様々な分野の芸術を体験する機会を提供し、創作活動を行う中で芸術への興味を深め、豊かな感性と表現力を磨き豊かな人材を育む。	第1回:7月28日(土) 第2回:8月18日(土) 第3回:9月29日(土) 第4回:10月20日(土) 第5回:11月17日(土)	<p>受講生27名(申し込み28名/キャンセル1名)</p> <p>・福岡県内外の美術館の職員を講師として招聘し、それぞれの館の特徴やコレクション、絵画、工芸品等芸術作品の見方を学ぶことにより、美術館の施設や芸術文化への理解や認識を深める。</p> <p>・各館の概要、歴史、美術館の役割、収蔵作品の紹介、企画展の紹介</p> <p>・企画展の種類(北九州市立美術館)</p> <p>・学芸員の仕事について、実際に教育普及事業のプログラムを体験(福岡市美術館)</p> <p>・学芸員になるには(福岡で資格が取得できる大学等紹介)、作品を収集してからの作業(修復、額装作業など)、二科会の誕生、特徴など(久留米市美術館)</p> <p>・文化財、国宝について、レプリカの鑑賞体験、ワークシートの記入、対話型鑑賞について、美術品の鑑賞の仕方(MOA美術館)</p> <p>・福岡の重要無形文化財、人間国宝について(福岡県立美術館)</p>	<p>・それぞれの館の学芸員から施設の概要や、収蔵作品の解説、仕事内容、展覧会ができるまでの話などを聞き、美術館を身近に感じてもらうことができた。また、美術館の存在価値を再認識し、美術館のファン、理解者を増やすことができた。</p> <p>・今後、美術館に行く際の予備知識ができてより深く作品を味わうきっかけになった。</p> <p>・受講生は学芸員の資格取得方法や教育普及活動、対話型鑑賞、二科会、文化財についてなど、専門的な知識を知ることができた。</p>	<p>・それぞれに好きな作家や好きな美術館があるようだったが、グループワークが少なく、話す機会がなかった。</p> <p>・アンケートでは、今回のような座学を中心に知識を深める講座を望む声と実用できる技術を学び、作品を作りたいという声があった。</p>	A

平成30年度嘉麻市教育委員会 生涯学習課事業総括表

【文化財係】

番号	アクションプラン主要施策	アクションプラン施策内容	アクションプラン事業名	個別事業名	H 30 年 度 総 括					
					Plan		Do	Check		
					実施目標	実施時期	具体的内容	成果	課題	自己評価
1	7 市民文化の創造	(2)文化財の保護・継承・活用	① 郷土の歴史文化を守る事業	文化財保護審議会	嘉麻市文化財保存活用計画の基本構想を策定すること	6/7 1/18 3/14	文化財の保存活用等について審議 ・平成30年度事業計画・報告について ・平成31年度事業計画について ・国指定重要文化財「華文刺繍陣羽織」の保管について ・山野地区フィールドワーク	開催回数：3回 ・保存活用計画の審議を踏まえて第3回にてフィールドワークを実施	嘉麻市文化財保存活用計画案の審議	B
2	7 市民文化の創造	(2)文化財の保護・継承・活用	① 郷土の歴史文化を守る事業	指定文化財の維持管理	国・県・市指定文化財の管理・監督を適切に行うこと	通 年	指定文化財への補助金 指定文化財等の日常管理 指定文化財所有者等への指導・助言	補助金交付：3件(県指定1件、市指定2件) 芝草刈等の維持管理：4件(県指定3件、未指定1件) ・北斗宮石燈籠修復の助言・指導	国指定重要文化財「華文刺繍陣羽織」の保管	B
3	7 市民文化の創造	(2)文化財の保護・継承・活用	① 郷土の歴史文化を守る事業	文化財調査	市内に残る多様な文化財の保護を図ること	通 年	開発行為等の事前審査 ・嘉穂地区遺跡の再整理 ・古文書の調査・整理 ・未指定文化財等の調査 ・文化財ブックレットの作成	書類審査件数：164件(3/11現在) ・試掘・確認調査件数：2件(3/11現在) ・嘉穂地区遺跡再整理：1261点(3/11現在) ・梅根家文書の整理：1件 ・山野地区未指定文化財の現況調査：1件 ・文化財ブックレット：3000部	未指定文化財の調査と保護	B
4	7 市民文化の創造	(2)文化財の保護・継承・活用	② 郷土の歴史文化を伝える事業	歴史民俗教育普及事業	郷土の歴史文化を周知し、文化財を活用すること	4/14・15 6/2～24 8/4 10/20・21 12/12 通年	春季沖出古墳特別公開(主催) ・いのちの花原画展(主催) ・語り伝える戦争の話(主催) ・秋季沖出古墳特別公開(主催) ・朗読音楽劇(主催) ・学習支援/講演会講師等	春季沖出古墳特別公開：143名 ・いのちの花原画展：192名 ・語り伝える戦争の話：25名 ・秋季沖出古墳特別公開：118名 ・朗読音楽劇：235名 ・学習支援/講演会講師等：28件(3/11現在)	平和イベントにおける若年層の取り込み	B
5	7 市民文化の創造	(2)文化財の保護・継承・活用	③ 郷土の歴史文化拠点施設活用事業	稲築文化ふれあい伝承館運営	県指定文化財「山野の楽」の保存と周知化を図ること	通 年	施設の日常管理 施設の案内説明	入館・利用者数(2/28現在)：709名 指定60周年にあたり、保存会と連携して、「山野の楽」の周知に努めた	施設の老朽化に伴い修理等が増加	B
6	7 市民文化の創造	(2)文化財の保護・継承・活用	③ 郷土の歴史文化拠点施設活用事業	嘉穂ふるさと交流館運営	嘉麻市の歴史民俗資料を保管し、展示すること	通 年	施設の日常管理 施設の案内説明 資料の貸出等 ・収蔵資料の台帳整備	入館・利用者数(2/28現在)：2107名 市内小学校の利用が増加	資料台帳の未整備	B
7	7 市民文化の創造	(2)文化財の保護・継承・活用	③ 郷土の歴史文化拠点施設活用事業	郷土館・平和祈念館運営	嘉麻市の主要な歴史民俗資料及び戦時資料・人権資料を保管し、展示すること	通 年	施設の日常管理 施設の案内説明 資料の貸出等 ・収蔵資料の台帳整備	入館・利用者数(2/28現在)：1744名(郷土館)1299名(祈念館) 人権研修として碓井平和祈念館を利用する団体が広がっている。	収蔵資料の活用を図る。	B

平成30年度 嘉麻市教育委員会 スポーツ推進課事業総括表

- ・ プロジェクトK・スポーツ推進係 1～3
- ・ 施設管理運営係 4

平成30年度事業総括表

【プロジェクトK・スポーツ推進係】

番号	アクションプラン主要施策	アクションプラン施策内容	アクションプラン事業名	個別事業名	H 30 年 度 総 括					
					Plan	Do	Check			
					実施目標	実施時期	具体的内容	成果	課題	自己評価
1	5 体力及び運動能力向上の推進	(1)スポーツによる地域の活性化	① スポーツコミュニティ創造事業	スポーツ推進委員・指導者派遣事業	地域のスポーツに関するコーディネーターとしてスポーツ推進委員・指導者を派遣します。運動・スポーツの社会的意義の重要性を広める担い手として活躍してもらいます。	①10～12月 ②通年 ③通年	①運動能力アップ親子塾は年中から小学3年生までとその保護者を対象に家庭でもできる運動遊びを紹介することで、親子のスポーツ機会の充実を図りました。(スポーツ推進委員) ②学童保育所出前講座は児童に対してコーディネーショントレーニングとニュースポーツ等の運動指導をすることで、子どものスポーツ機会の充実を図りました。(スポーツ推進委員) ③嘉麻市社会福祉協議会のふれあいいきいきサロン取り組み団体の申し出に応じて地域の公民館等に出向いて運動指導を実施することで、市民のスポーツ機会の充実を図りました。(土日:スポーツ推進委員、平日:地域活動指導員)	①運動能力アップ親子塾は4回延べ95人の親子が参加しました。 ②学童保育所出前講座は学童保育所7カ所において延べ22回実施し、延べ526人の児童が参加しました。 ③7地区のサロンに1回または2回実施し、延べ約210人が参加しました。	スポーツ推進委員は学童保育所出前講座を中心に事業展開し、運動指導対象者の拡充を図ってきましたが、運動指導は子どもに対する指導が中心となっています。より地域に密着した事業展開を実施するため、平成30年度から嘉麻市社会福祉協議会のふれあいいきいきサロン取り組み団体を対象に運動支援を始めましたので、今年度も事業の拡充が必要です。	B
2				スポーツ情報提供事業	スポーツイベントやスポーツ団体組織、スポーツ運動施設など身近な情報を提供します。また、運動・スポーツの社会的意義の重要性を広く市民に伝えます。	随時	広報嘉麻と嘉麻市スポーツ情報ホームページにおいて、各種スポーツ教室や荒木名誉教授のコーディネーション理論を情報提供することで、市民のスポーツ活動の活性化を図りました。	嘉麻市スポーツ情報ホームページに市の主催事業や各種イベント情報などスポーツ情報を集約することで、4月から2月までのホームページ閲覧件数が1か月平均で29年度の3,555件から30年度は4,062件に増加しました。	嘉麻市スポーツ情報ホームページを開設し、施設利用案内や教室・イベント情報、スポーツ団体情報、プロジェクトKの取り組みなど嘉麻市のスポーツ情報の集約を図り、情報提供してきました。掲載してきた情報は、市が主催する事業が中心でしたので、今後は各種スポーツ団体等の情報も掲載するなど内容の充実を図ることが必要です。	B
3				スポーツによるコミュニティ創造事業	市民に対してスポーツを実施する機会を提供するとともに、継続的にスポーツができるようにサークル設立を支援します。また、スポーツに関する情報発信を行うことでスポーツ人口の増加を図るとともに、市民の交流の機会を提供します。	通年	嘉麻市社会福祉協議会のふれあいいきいきサロン取り組み団体を対象に出前講座を開始しました。平日は地域活動指導員が、土日はスポーツ推進委員が公民館等に出向き運動指導することにより、市民の憩いの場の創出を図り、市民が健康づくりに取り組みながら地域コミュニティが形成できるよう支援しました。1サロン年2回まで2年継続。	平日は4地区で、土日は3地区で1回もしくは2回実施し、延べ約210人が参加しました。	平成28年度から鴨生地区をモデル地区として、地域活動指導員による出前講座を試行してきました。鴨生地区の試行を踏まえ、平成30年度は嘉麻市社会福祉協議会のふれあいいきいきサロン取り組み団体を対象に出前講座を開始しました。今後も事業の拡充が必要です。	B
4				スポーツ・健康教室開催事業	誰もが参加できるスポーツ教室やスポーツ教室間の交流事業を展開し、スポーツを通じたコミュニティづくりを目指します。	通年	①健康運動教室及びリズムカルフィットは、嘉穂総合体育館や稲築体育館において定期的な運動教室を実施することで、市民のスポーツ機会の充実を図るとともに新たなコミュニティの形成を図りました。 ②産後ママのリフレッシュケアは0歳児を養育する母親を対象に自宅でできるトレーニングや食事指導を実施することにより、産後の母親のスポーツ機会の充実や健康増進を図るとともに新たなコミュニティの形成を図りました。 ③65歳以上の男性を対象に、腰痛や肩こりなど悩みに応じた筋力トレーニング教室を実施することで、高齢者男性のスポーツ機会の増加を図りました。	①健康運動教室は毎月8回程度実施し、2月末現在で延べ1,236人が参加しました。リズムカルフィットは4月から11月まで毎月4回程度実施し、延べ605人が参加しました。 ②産後ママのリフレッシュケアは年8回実施予定で、2月末現在で、延べ37人が参加しました。 ③高齢者男性向けの教室は年12回実施予定で、2月末現在で延べ47人が参加しました。	託児付きの教室や産後の母親を対象にした教室、高齢者の男性を対象とした教室を実施し、参加者層の偏りや固定化の解消を図ってきました。高齢者男性を対象とした教室の参加者が少ない状況であるため、参加者の増加を目指した対策が必要です。	B
5		(2)スポーツ環境の整備	① スポーツ環境創成事業	スポーツ施設情報提供事業	施設の利用を促進するため、新しい施設の活用方法について情報を提供します。	3月	サルビアパークにおいて、施設の利用者やその保護者及び観覧者等がウォーキング・ジョギングできるような施設周辺のウォーキング・ジョギングマップを設置することで、ウォーキング・ジョギング人口の増加を図りました。	サルビアパークにウォーキング・ジョギングコースの看板を設置しました。	スポーツ施設を活用したウォーキング・ジョギングコースの増設を図るとともに、市民が気軽にスポーツ施設を利用できるよう、施設で実施できる運動を情報提供することが必要です。	B

平成30年度事業総括表

【プロジェクトK・スポーツ推進係】

番号	アクションプラン主要 施策	アクションプラン 施策内容	アクションプラン 事業名	個別事業名	H 30 年 度 総 括					
					Plan	Do		Check	自己評価	
					実施目標	実施時期	具体的内容	成果		課題
6				人間に有益なスポーツ運動施設の改善事業	脳機能の発達促進を目指し、身近な家庭環境からスポーツ施設など公共施設まで心理的・行動的に有益な環境づくりと整備を進めます。	6月	荒木名誉教授の研修会の中で脳機能発達を目指したスポーツ環境の整備に関する講話を実施することで、身近な家庭環境における脳機能の発達を意識した環境づくりの啓発を図りました。	「荒木式」スポーツコーディネーショントレーニング教室の初日に保護者向け研修会を実施し、保護者17人が受講しました。	環境整備の対象は、身近な家庭環境から公共施設までと広範囲であるため、まずは身近な家庭環境に対する心理的・行動的に有益な環境づくりへの取り組みが必要です。平成30年度は荒木先生の研修会を実施しましたが、より多くの市民への啓発が必要です。	B
7				自然のなかでの豊かな運動環境の開発事業	脳機能の発達促進を目指し、自然や文化を活用した運動環境を整備します。	4月・10月	市内の史跡や自然を活用したウォーキングコースを作成し、ウォーキングイベントを実施することで、ウォーキング人口の増加を図りました。	4月に熊ヶ畑地区、10月に碓井地区においてウォーキングコースを設定し、文化財係と連携したイベントを開催しました。延べ16人が参加しました。	史跡や自然を活用したコースの増設を図りながら、随時イベントを開催することが必要です。また、イベントを実施したコースを市民が手軽に利用できるよう情報提供することが必要です。	B
8	(3)生涯スポーツの推進	① プロジェクトK事業	子育て・子育て支援事業	0～3歳の乳幼児を対象としたコーディネーショントレーニングを普及します。	通年	乳児を対象としたコーディネーション理論やトレーニングを掲載した啓発冊子「家庭でできる乳児コーディネーショントレーニング」を配布することにより、保護者が家庭でトレーニングできるよう普及を図りました。	啓発冊子は、健康課を通じて、生後2か月を経過した赤ちゃんの家庭訪問の際に、保護者に対して配布しました。	指導者の育成については、指導者用DVDを市内の乳幼児施設に配布し、また、荒木名誉教授による研修会を実施してきました。保護者への啓発は、啓発冊子を作成し、健康課を通じて保護者に配布しています。運動の苦手な子や動きの気になる子、発達障がいや障がいを持つ子を対象にした荒木名誉教授によるこどもクリニックも実施しています。年々こどもクリニックの要望が増加しており、動きの気になる子などを対象にした支援の充実を図ることが必要です。	B	
9				保育、幼児教育の推進事業	3～6歳の幼児を対象としたコーディネーショントレーニングを普及します。	通年	①荒木名誉教授によるコーディネーショントレーニング指導者研修会を実施することにより、乳幼児施設の指導者の育成を図りました。 ②私立保育園、私立幼稚園については、トレーニング指導に係る経費を補助するプロジェクトK事業推進補助金を交付することで、トレーニングの普及を図りました。 ③子どもの発達に不安のある家庭を対象に荒木名誉教授とマンツーマンでコーディネーション理論の観点から子どもの様子を観察しアドバイスを行う「こどもクリニック」を実施することにより、保護者が子どもの発達に応じた子育てができるようトレーニングの普及を図りました。	①荒木名誉教授の研修会に参加した乳幼児施設の職員は、延べ104人です。 ②私立保育園6か所、私立幼稚園3か所が補助金を活用し月1回程度のトレーニングを実施しました。 ③こどもクリニックは延べ7人が受講しました。	指導者の育成については、指導者用DVDを市内の乳幼児施設に配布し、また、荒木名誉教授による研修会を実施してきました。指導については、公立保育所は市保育士による定期的な実技指導を実施し、私立保育園・幼稚園にはトレーニングが取り組めるよう財政支援を実施しています。運動の苦手な子や動きの気になる子、発達障がいや障がいを持つ子を対象にした荒木名誉教授によるこどもクリニックも実施しています。年々こどもクリニックの要望が増加しており、動きの気になる子などを対象にした支援の充実を図ることが必要です。	B
10				小学生、中学生のスポーツ運動を通じた総合教育の推進事業	6～15歳の小・中学生を対象としたコーディネーショントレーニングを普及します。	通年	①荒木名誉教授によるコーディネーショントレーニング指導者研修会を実施することにより、小学校及び中学校の指導者の育成を図りました。 ②小学校児童を対象に、スポーツ推進課職員によるトレーニング指導を実施することにより、小学校におけるトレーニングの普及を図りました。 ③子どもの発達に不安のある家庭を対象に荒木名誉教授とマンツーマンでコーディネーション理論の観点から子どもの様子を観察しアドバイスを行う「こどもクリニック」を実施することにより、保護者が子どもの発達に応じた子育てができるようトレーニングの普及を図りました。	①荒木名誉教授の研修会に参加した小学校の教員は延べ20人、中学校の教員は延べ13人です。 ②すべての小学校で実施しました。 ③こどもクリニックは延べ8人が受講しました。	指導者の育成については、指導者用DVDを市内の各小学校に配布し、また、荒木名誉教授による研修会を実施してきました。指導については、すべての小学校で運動指導が実施できています。また、運動の苦手な子や動きの気になる子、発達障がいや障がいを持つ子を対象に、荒木名誉教授によるこどもクリニックも実施しています。中学校に対する運動指導は未実施ですが、小中学校の教員を対象とした合同研修会と稲葉中学校を対象とした実技研修会も実施しました。今後も小学校への継続的な実施と中学校への普及の促進が必要です。また、年々こどもクリニックの要望が増加しているため、動きの気になる子などを対象にした支援の充実を図ることが必要です。	B

平成30年度事業総括表

【プロジェクトK・スポーツ推進係】

番号	アクションプラン主要 施策	アクションプラン 施策内容	アクションプラン 事業名	個別事業名	H 30 年 度 総 括					
					Plan	Do	Check			
					実施目標	実施時期	具体的内容	成果	課題	自己評価
11				高齢者の生きがいのある生活実現のための事業	高齢者に対するコーディネーショントレーニングを普及します。	通年	今年度から嘉麻市社会福祉協議会のふれあいいきいきサロン取り組み団体に対する出前講座において、コーディネーショントレーニングを実施することにより、高齢者に対するトレーニングの普及を図りました。	7地区のサロンに1回または2回実施し、延べ約210人が参加しました。	嘉麻市社会福祉協議会のふれあいいきいきサロン取り組み団体に対する出前講座において、コーディネーショントレーニングを実施していますが、高齢者全体に対する体系的な導入には至っていません。体系的な導入を目指し、高齢者関係施設への普及の促進が必要です。	B
12	(4)競技スポーツの推進事業	① 競技スポーツ推進事業	各種競技大会、未経験の競技体験会の開催事業	公的な各種スポーツ競技大会を開催します。また、子ども達を対象に普段経験したことのないスポーツ体験会を開催します。	①通年 ②8月、2月	①市体育協会やその加盟する団体、各種実行委員会に対し財政的な支援を実施することにより、教室・大会の円滑な実施や活動の活性化を図りました。 ②小学生を対象にカヌー教室とボルダリング教室を実施することで、子ども達が未経験のスポーツを体験することにより様々なスポーツに対する関心を深めました。	①市民総合体育大会には15種目880人が、県民体育大会には8種目115人が参加しました。シティマラソンは649人、子ども駅伝は駅伝やマラソンなどの競技に延べ690人が参加しました。 ②カヌー教室は4回実施し、延べ32人の児童が、ボルダリング教室は1回実施し27人の児童が参加しました。	未経験の競技体験会はカヌー教室とボルダリング教室を実施しました。子ども達が様々なスポーツに関心が持てるよう継続的に事業を実施するとともに、様々なスポーツを実施する等事業の充実が必要です。	B	
13			子ども達のスポーツと競技力向上への関心を高める事業	競技スポーツ大会の開催やトップアスリートとの交流により子ども達の競技スポーツへの関心を高めます。子ども達のタレント発掘と競技力育成に関わる事業を展開し、全国や世界で活躍できるスポーツ選手の育成に取り組みます。	①8月 ②1月 ③通年	①市内の年長児から中学生までを対象に、プロバスケットボール選手によるバスケットボール教室を実施することで、夢と希望を持ってスポーツに取り組む子ども達の育成を図りました。 ②小学生を対象としたドッジボール大会を実施することで子ども達の競技スポーツへの関心を高めました。 ③小学3年生を対象とした荒木式スポーツコーディネーショントレーニング教室を開催し、低学年期に応じたスポーツコーディネーショントレーニングプログラムを実施することで、将来さまざまなスポーツに対応できるよう、子どもの潜在能力の全体的な育成を図りました。	①市内の年長児から小学生まで27人、中学生30人の計57人が参加しました。 ②市内小学校の低学年2チーム、高学年5チーム93人の児童が参加しました。 ③市内の小学3年生7人、4年生10人の計17人が、年16回基礎的なトレーニングのほか水泳、テニス、バレーボールのスポーツコーディネーショントレーニングを受講しました。	子ども達のタレント発掘と競技力育成に向けた事業については、平成29年度からサルビアパークにおいて指定管理者と連携し、小学3年生を対象とした荒木式スポーツコーディネーショントレーニングを実施しています。29年度及び30年度は水泳、テニス、バレーボール競技の種目を実施しました。その他の種目についても実施できるよう事業の充実が必要です。	B	
14			指導者養成・育成とスポーツ科学の普及事業	スポーツ指導者、スポーツ推進委員、教員、保育士、一般市民を対象にした身近なスポーツ科学、運動科学、栄養学、コーディネーショントレーニングなどに関する学習会、研修会を開催します。	通年	荒木名誉教授によるコーディネーショントレーニングの指導者研修会を実施し、指導者の育成を図りました。	年間7回の研修会を実施し、延べでスポーツ推進委員42人、保育士104人、学童保育士2人、小学校教員20人、中学校教員13人、障がい者施設10人、スポーツ施設21人、PTA111人、その他16人の計339人が受講しました。	スポーツ指導者の育成については、競技力向上の土台となるコーディネーショントレーニングの指導者研修会を中心に実施しました。スポーツ推進委員や地域活動指導員をはじめ、乳幼児施設職員、小中学校教員など多くの指導者が受講しています。今後もコーディネーショントレーニング研修会の内容の充実を図るとともに、幅広いスポーツ指導者の発掘、育成を図ることが必要です。	B	

平成30年度事業総括表

【施設管理運営係】

					H 30 年 度 総 括					
番号	アクション プラン主要 施策	アクション プラン施策 内容	アクション プラン事業 名	個別事業名	Plan	Do		Check		
					実施目標	実施時期	具体的内容	成 果	課 題	自己評価
1	5 体力及び 運動能力向 上の推進	(1)スポーツ による地域 の活性化	② スポーツ 大会誘致・ス ポーツ大会 支援事業	スポーツ大会 誘致・スポーツ 大会支援	スポーツを行ったり観戦することとあわ せて、地域の人々と交流することで地域の 活性化に繋げる。	通年	スポーツ大会誘致・支援事業 【内容】 各団体に働きかけ、大会や合宿を誘致す る。	・フリーグボルクバレット北九州の試合の支 援 開催日：H30.8.5、8/19、10/7 (観客人数：延べ約1,000人) ・高校駅伝九州大会の開催支援 開催日：H30.11.17～18 (観客人数：約3,050人)	ボルグバレット北九州が嘉穂総合体育館をホー ムアリーナとしてフリーグチームに参入し試合が 開催されたが、周知不足もあり観戦の多くは チーム関係者だった。今後は関係機関と連携 し、特産品の販売等を行いさらなる交流人口の 増加に努める。	B
2	5 体力及び 運動能力向 上の推進	(2)スポーツ 環境の整備	② 社会体 育施設管理 運営事業	社会体育施設 管理運営事業	市民のニーズに応じたより快適なスポーツ の場を提供する	通年	社会体育施設管理運営事業 【内容】 適切な維持管理運営を行う。	老朽化している施設について、利用状況等 を勘案しながら効率的な補修・改修を行っ た。	老朽化している施設について、個別施設見 直し計画をもとに、施設の利用状況等を勘 案しながら適切な補修・改修を計画的に 行っていく必要がある。	B